

那須岳の火山活動解説資料（令和3年1月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2、図3-①②、図4-①）

湯本ツムジケ平監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南東約5km）及び日の出平北監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南西約0.8km）による観測では、茶臼岳の噴気は一時的に200mまで上がることもあるものの少ない状態で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図3-③、図4-②、図5）

那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。震源は、主に茶臼岳付近の深さ0～2kmに分布しました。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図4-③～⑦、図6）

GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図1 那須岳 茶臼岳の状況（1月20日、湯本ツムジケ平監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧できます。

次回の火山活動解説資料（令和3年2月分）は令和3年3月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

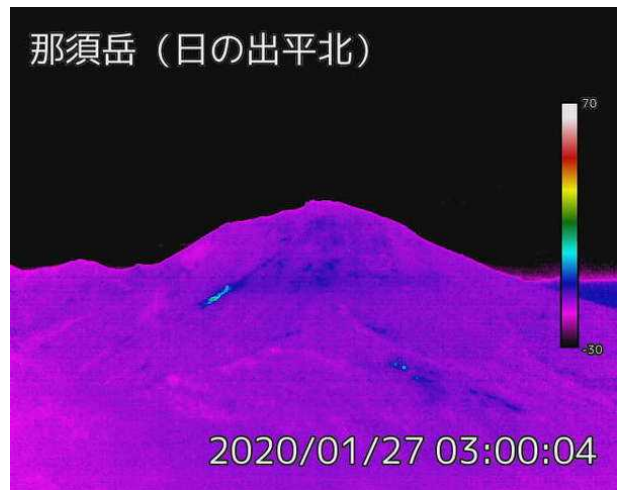
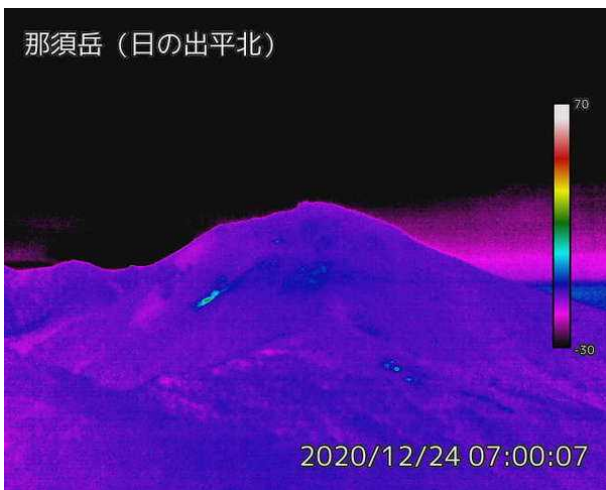
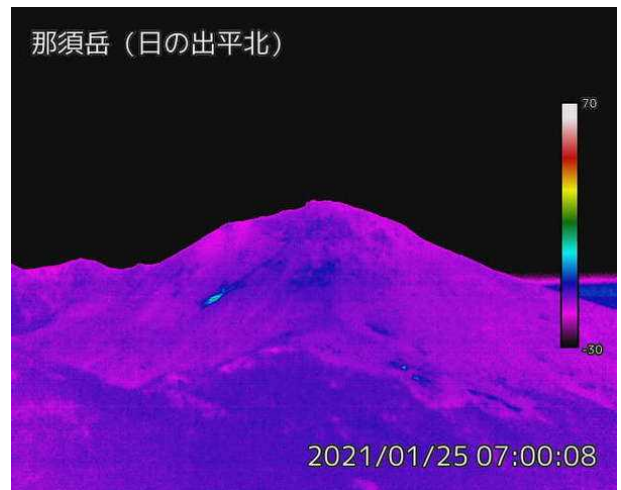


図2 那須岳 茶臼岳の西側斜面の可視画像と地表面温度分布（日の出平北監視カメラによる）

- ・噴気地帯に対応している場所で引き続き高温部分が認められます。
- ・前月（左下図）及び前年（右下図）と比較して、地表面温度分布に特段の変化は認められません。

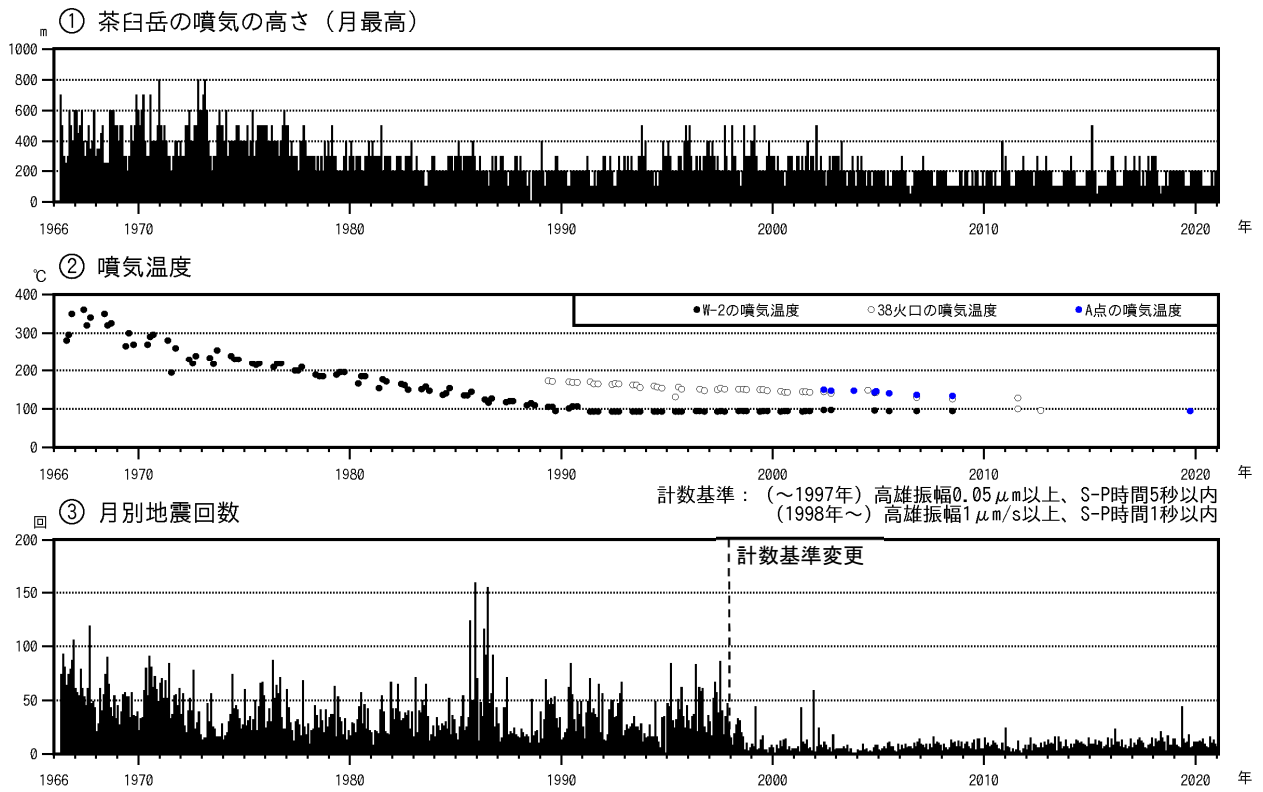


図3 那須岳 火山活動経過図（1966年1月～2021年1月）

- ① 2002年2月以前は、定時観測（09時・15時）による月最大値
- ② 噴気温度のW-2、38火口及びA点はいずれも茶臼岳西側斜面の温度観測定点
- ③ 月別地震回数（～1997年：那須岳周辺の地震を含む、1998年～：那須岳山体付近の地震のみ計数）

・噴気活動、地震活動は低調に経過しています。

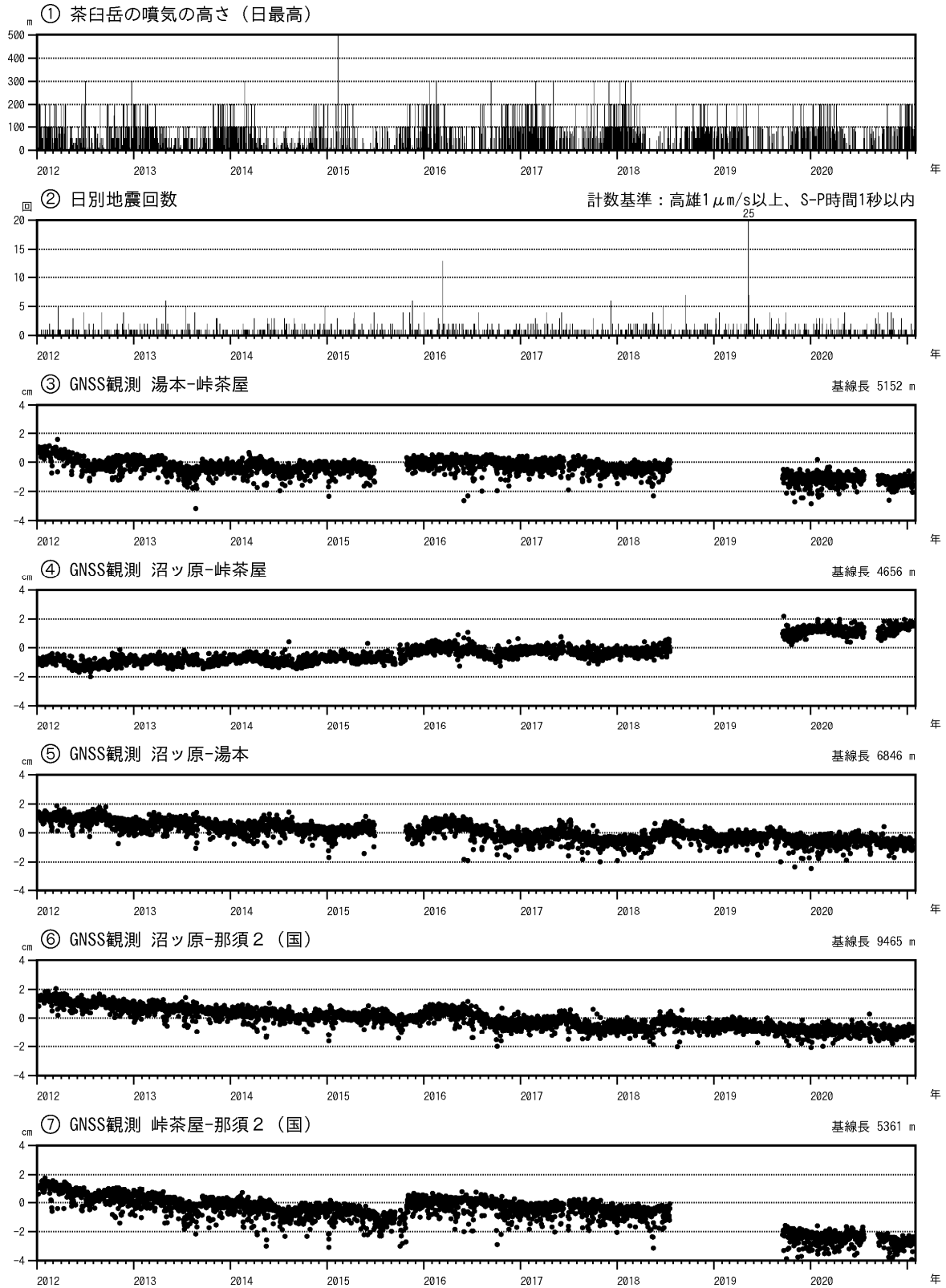


図4 那須岳 火山活動経過図（2012年1月1日～2021年1月31日）

③～⑦ GNSS連続観測による基線長変化を示しており、図6のGNSS基線③～⑦に対応しています。2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。空白部分は欠測を示します。

④ ④⑦ 峠茶屋観測点は、2019年9月9日に機器更新をしています。

⑤ の基線長変化にみられる夏季の伸びの傾向は、季節変動と考えられます。

・ 噴気活動、地震活動は低調で、GNSS連続観測でも火山活動によるとみられる変動は認められません。

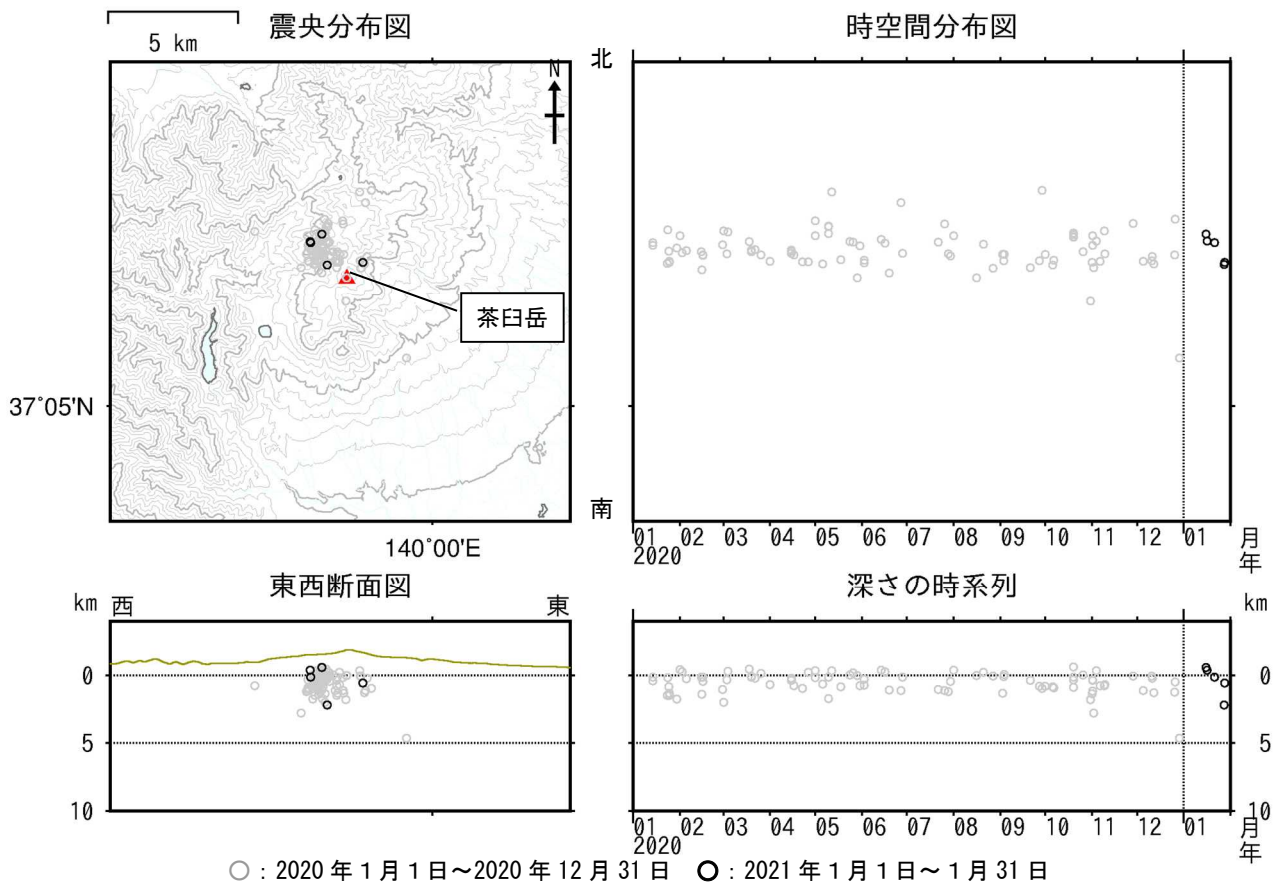
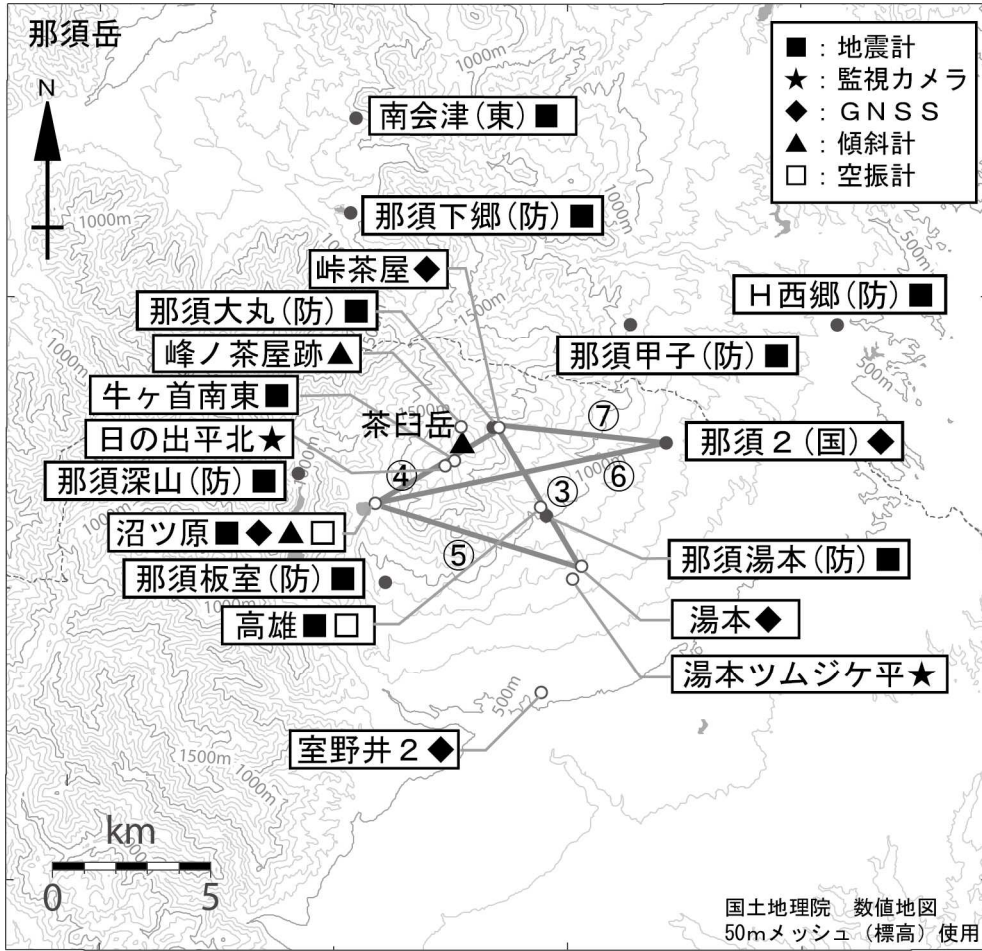


図5 那須岳 震源分布図（2020年1月1日～2021年1月31日）

- ・ 那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
- ・ 震源は、主に茶臼岳付近の深さ0～2 kmに分布しました。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所、（東）：東北大学

図6 那須岳 観測点配置図

GNSS 基線③～⑦は図4の③～⑦に対応しています。